

分類番号

319

テーマ別調べ方ガイド



国際機関への就職 について考える



★ 関連授業科目
インターンシップ
法学部

「Paste (はすて)」とは？

ぱっと分かって、すっと頭に入る、テーマ別調べ方ガイドです。みなさんの学習をサポートする、総合図書館ティーチング・アシスタント (TA) による作成です。レポート作成の際などにお役立てください

1. イントロダクション

1-1. 「国際機関の仕事」とは？

国際機関と一口に言っても、その内容は多岐に渡る。大きく4つに分けると、①国際連合(UN)、②国連の下部機関(例:国連開発計画(UNDP)、国連児童基金(UNICEF)など)、③専門機関(例:国際労働機関(ILO)、国連教育科学文化機関(UNESCO)など)、④その他(例:国際原子力機関(IAEA)、世界貿易機関(WTO)など)である。文系が多いイメージがあるかもしれないが、医療・保健分野では、世界保健機関(WHO)、環境分野では、国連環境計画(UNEP)、農学分野では、国連食糧農業機関(FAO)など、理系人材を求めている機関もたくさんある。

1-2. 国際機関への就職を考えるにあたってのポイント

国際機関へ就職することはゴールではないはずだ。自分が何をしたいのかをよく考えた上で、国際機関を選ぶのが良いのか、その他の場所の方が良いのかを考えよう。また、国際機関で一生働くという選択肢もあるが、それ以外にもキャリアの積み方はたくさんある。さまざまな人の話を聞いて、自分のキャリアについて考えてみよう。

1-3. 一般向けに書かれた資料・読み物

■ [国際公務員になるには / 横山和子](#)【書誌 ID=2004096527】

外国図 2 階キャリア支援図書 B

国際公務員という仕事は、聞いたことはあるけれど、実際どんな仕事なのだろうか。進路を考える上で、1つのきっかけとなる本である。

2. 情報収集

2-1. 手元にあると便利な参考書

■ [国際連合の基礎知識](#) 【書誌 ID=2004249534】

外国図 3 階開架 319.9/122

国際連合にはどのような機能があって、どのような仕事をしているのか。読んで見ると、国連について新たな発見があるはず。

■ [わかりやすい国連の活動と世界 / 日本国際連合協会著](#) 【書誌 ID=2003496294】

総合図-A 棟 3/4 階 学習用図書 329.33/NIP

国連英検のテキストである。英語の勉強にも国連の勉強にもなるので、オススメ。

2-2. 最初に読むべき資料

- [外務省国際機関人事センター「国連機関への就職：国際公務員就職ガイダンス資料」](http://www.mofa-irc.go.jp/shiryo/dl-data/Information_and_Guidance_2014.pdf)
(http://www.mofa-irc.go.jp/shiryo/dl-data/Information_and_Guidance_2014.pdf)
国連の採用制度、処遇、応募方法、準備すべきことなど、応募にあたって必要な情報が載っているので、必ず見ておくべし。
- [国連広報センター「国連で働く」](http://www.unic.or.jp/working_at_un/)(http://www.unic.or.jp/working_at_un/)
国連本部の採用サイト UN Careers の一部を日本語訳したもの。国連の採用については詳しく書かれている。

2-3. キャリアを考える

- [国連フォーラム](http://www.unforum.org/)(<http://www.unforum.org/>)
日本人の国連職員、インターン生へのインタビュー記事が多数。どのようなキャリアを積んできたのか、どのような仕事をしているのか、非常に参考になる。特に、国連フォーラムのメーリングリストには登録すべし。
- [世界の現場で僕たちが学んだ「仕事の基本」/長嶺義宣, 外山聖子編](#) 【書誌 ID=2004372916】
[総合図-A棟2階 キャリア支援図書 329.3/NAG](#)
国際機関や NGO で活躍する 17 名のエピソードが載った本。世界で働く人はどのような事を考え、日々仕事をしているのか。国際機関への就職に興味がある人以外にもオススメ。

2-4. 採用プロセスについて知る

- [UN Careers](https://careers.un.org/lbw/Home.aspx)(<https://careers.un.org/lbw/Home.aspx>) (英語)
国連本部の採用サイト。国連での働き方や応募方法、採用試験について、詳しく書かれている。空席情報も確認できるので、興味のある分野を探してみて、どのような能力が求められているのかを確認するといいい。
- [Young Professionals Programme](https://careers.un.org/lbw/home.aspx?viewtype=NCE&lang=en-US)
(<https://careers.un.org/lbw/home.aspx?viewtype=NCE&lang=en-US>) (英語)
国連事務局 YPP は、国連事務局若手職員を採用するための試験。学部卒、職務経験がなくても応募可能。年に一度試験が行われるが、募集分野は毎年異なるので要注意。
- [JPO 派遣制度](https://www.mofa-irc.go.jp/jpo/index.html)(<https://www.mofa-irc.go.jp/jpo/index.html>)
将来国際機関への正規職員を目指す日本人を外務省から国際機関へ派遣する制度。修士号の取得、2 年以上の勤務経験が応募の条件。国際機関を目指すなら、JPO が最も可能性の高い方法である。

2-5. その他

■ 国連機関日本政府代表部 (<https://www.un.emb-japan.go.jp/jp/index.html>)

国連における日本の取り組み、ステートメント、イベント等の情報が満載。ニューヨークにある国際機関の空席情報もあり。

■ 在ジュネーブ国連機関日本政府代表部

(https://www.geneve-mission.emb-japan.go.jp/index_j.htm)

更新頻度は高くないが、在ジュネーブ国際機関の空席情報は必見。合わせて、ジュネーブ国際機関日本人職員会 (JSAG) のホームページ (<https://jsag-geneva.blogspot.com/>) を見るといい。

3. インターンシップに応募する

3-1. インターンシップとは

国際機関の業務や組織風土を知る上で、インターンシップは非常に有効である。インターンシップは、勤務経験にはカウントされないものの、そこで築いた人脈や経験は、国際機関に就職する際に強みとなる。修士課程在籍中であること、最低3か月の勤務ができることなどの応募条件が多いが、各機関によって条件は異なるので、要チェック。また、機関によっては、条件を交渉できる場合もあるので、興味がある機関があれば、諦めずに応募してみよう。

3-2. 応募方法と注意点

まずは、応募したい機関とどの部署で何がしたいかを考えよう。行きたい部署で求められている経験、能力を考えた上で、応募に必須の CV (履歴書) とカバーレターを書こう。インターンシップの空席情報は、上記の UN Careers や外務省の HP で確認できるが、オンラインで公募されているものには、何万と応募が来るため、合格する可能性は極めて低い。なので、行きたい機関の行きたい部署に直接メールを送るのがオススメ (インターネットで検索すれば、連絡先が出てくる場合もある)。連絡先が分からない場合は、人脈を使ったり、自分で講演会に行ったりして、応募したい機関へメールを送ってもらえる人を探そう。応募してから、返事が来るまで、半年程かかったという話もよく聞くので、準備はしておいて、焦らずに待とう。

3-3. インターンシップの内容

インターン先が決まると、ほとんどの場合、Terms of Reference (TOR) で、どのような業務内容をするかという指示書が渡される。しかし、何をするか、どうやってやるかは、インターン生に委ねられていることが多く、積極的に動かなければ、放置されてしまう可能性が高い。議事録の作成、報告書のサマリー作成など与えられた仕事は、きちんとこなしながらも、自分にできることがあれば、どんどん挑戦していこう。また、丁寧な指導は少ないかもしれないが、分からないことを質問すれば、多くの場合、親切に答えてくれる。インターンで何をやるか明確な目的を持っていけば、充実したインターンシップになるはずだ。

本文中で紹介している図書・雑誌について

図書名・雑誌名の後ろに「書誌 ID」(10桁の数字)の記載があるものは大阪大学で所蔵しています。この10桁の数字で大阪大学 OPAC (蔵書検索システム) が検索できます。

